

# データ駆動イノベーション新潟

通称：D2IN（ディーツイン）

機能構成紹介

共有する価値観

## データ立県にいがた

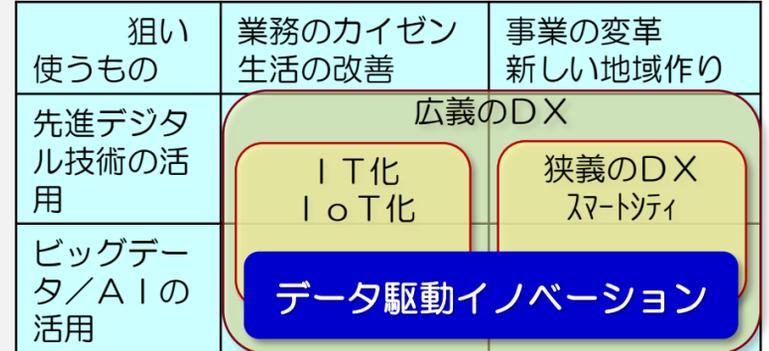
### データを真に扱える実務者を輩出し、データ利活用で地域社会を変革する

目標

- ビッグデータやAIを扱える人材を、3年間で100人育成する。
- リビングラボprojectを、3年間で5件実施する。
- 人材育成や社会イノベーションに関する、国の事業を獲得する。

あらゆる分野へのDX（デジタルトランスフォーメーション）への機運が高まる中、「デジタル人材」の育成が共通の重要課題になっています。特に、データを活用して事業の変革（イノベーション）できる人材を育成するための産学官連携活動は、全国的にもまだ少なく、新潟県内においては存在しません。

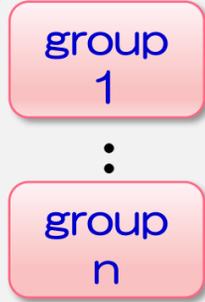
本活動では、AI/ビッグデータ活用に関する産学官連携活動を通し、AI/ビッグデータを有効に扱える「実務者人材」の育成を推進し、またデータを利活用した地域課題の解決を目指します。



## データ駆動実習

価値感「データを真に扱える実務者を育成する。」を共有するコミュニティ

自社保有もしくはオープンなビッグデータと、データ処理用プログラミング言語（Pythonなど）を使い、教員から指導を受け、自ら課題設定→データ加工→データ分析・検証を実習することで、知識とスキルを高めます。



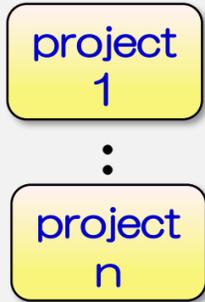
対象とする企業	「データを扱える実務者」を育て、データ活用への気運を高めたいという意欲と課題認識を持つ企業。
対象とする人	Pythonの基礎知識やディープラーニングの基礎知識を持っている実務者。
扱うビッグデータ	企業が狙う課題解決に関連するような、自社保有もしくはオープンなビッグデータ。
進め方	基本は「独習」で、自らが課題設定し、データ加工分析し、結果を報告し、教員から指導を受ける。
期間	半年～1年間くらい。

## リビングラボ

価値感「データ利活用で社会イノベーションを起こす。」を共有するコミュニティ



地域が抱えている諸課題に対し、関係するメンバ（教員と行政・地域団体・住民・企業など）が議論し、課題設定→データ収集→データ分析→施策立案→実施検証をくり返し、課題解決を目指します。



対象とする地域	課題認識を持ち、大学との共同研究で社会イノベーションを実践したい行政・企業・住民など。
対象とする人	設定された地域課題に対して、データを基にした現状分析→施策立案→改善評価ができる人、
扱うビッグデータ	その行政や地域が保有するビッグデータを使う。あるいは、新たに収集する。
進め方	メンバは、産官学民で構成する。課題設定→データ収集→加工→分析、さらに、データに基づいた施策立案→施策実施→結果検証を繰り返す。
期間	1年間～数年間くらい。

## セミナー

データ駆動イノベーションに関する先進技術動向や成功事例などの講演や、データ駆動実習/リビングラボの報告を行います。

## 企画委員会

方向性/活動計画などを企画検討します。

委員構成

- ・新潟大学ビッグデータアクティベーション研究センター
- ・新潟県産業労働部創業・イノベーション推進課
- ・新潟県工業技術総合研究所
- ・にいがた産業創造機構（NICO）
- ・新潟県IT産業ネットワーク21、IT関連企業

